

ニューソフィア

New Sophia

87号

[vol.23-3]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています

Featuring News

国際交流

慶熙大(韓国)／中国医科大学(中国)
上海交通大学(中国)／ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)

Seasonal Topics

平成26年度事業報告および決算

Campus News

「学校法人福岡学園田中健藏基金」設立、ご遺族に感謝状贈呈
平成27年度科学研究費助成事業交付内定一覧
厚生労働科学研究事業において佐藤博信教授の研究課題が採択

People

羽生哲也名誉教授、春の叙勲受章
山崎純教授、再生医学研究センター長に選任
新任教員紹介
福岡歯科大学特待生
福岡歯科大学一般入学試験A日程特待生・同特待生継続者
福岡歯科大学A〇入試学術奨励金継続支給者
福岡医療短期大学特別奨学生
平成27年度福岡歯科大学臨床教授・准教授紹介

Events

福岡歯科大学・福岡医療短期大学歯科衛生学科激励会
福岡医療短期大学保健福祉学科実習決意式
「ここ」ウォーキング&ジョギング2015
第18回学園体育祭 ■サンシャインシティ運動会
福岡歯科大学公開講座
福岡医療短期大学公開講座案内
健康まるごと福岡学園案内
父兄後援会支部懇談会開催日程

From Alumni

同窓会だより／同窓生の子弟に対するオープンキャンパス開催

Hi! From Clinic

よしおか歯科(ごも歯科)福岡市中央区
まりん歯科クリニック(宮崎県宮崎市)

Students & Parents

学生と保護者様からのメッセージ

Information

平成28年度入試日程／オープンキャンパス

12

11

10

9

8

7

6

4

2

国際交流

慶熙大 歯学部 歯科大学



私たちが安西寛真、吉田雅、西岡紀栄、渡邊里紗の6年生4名は、3月8日から3月15日までの8日間、韓国のソウルに位置する慶熙大歯科大学への海外研修に参加させていただきました。

慶熙大歯学部は歯学部の他にも医学部、薬学部、経営学部などでも多くの学部を持ち、大学内に位置するホールでは、入学式や卒業式や無料歯科相談、また私たちがも知っているような著名な芸術家を招いてのコンサートが開催されるなど、とても地域と密に関係した大学であるという印象を受けました。また博物館、図書館もそれぞれ三つあり、一つ一つがとても大きく、特に博物館は韓国一の収蔵数があるとのこと、大学の規模の大きさにとっても驚きました。

慶熙大歯学部の歯学部は4年制大学を卒業後に入学を許される制度があり、また歯学部に入学するためには、全国の成績上位者1%に入らなければならない、医学部よりも人気の学部だそうです。また、一学年の人数は約80名で、女子は30名ほどと、私たちの大学と似たような印象を受けました。

私たちは研修期間中、毎朝9時から大学の構内を見学したり、基礎の講座の見学や、大学病院内の見学、また離れた場所に位置する附属病院の見学をさせていただきました。基礎分野では講師の先生が行っている研究の見学や機材の見学をさせてもらい、とても研究において恵まれている環境であるという印象を持ちました。また大学内に位置する大病院では、日本と同じように補綴科、保存科、矯正科等の一般診療科の他に、口腔内科という治療だけでは取り除けない痛みや顎関節症それに付随する筋の痛みを、外科処置ではなく投薬やマッサージ、温冷刺激、電気刺激などで改善しようとする、私たちの大学にはない名称の科の見学を行い、実際に処置の体験もさせてもらいました。他にも、韓国では日本

福岡歯科大学では、学生時代に広い視野と豊かな国際感覚を身につけるべく、アジアやカナダの提携大学と活発な交流を行っています。今年も4組の学生訪問団が各国の文化や歯科医療の教育現場、臨床現場を学んできました。

中国医科 歯科大学 口腔医学院



私たちが比嘉洋介、大和寛明、吉沢文那、受田直樹の6年生4名は山崎純先生、木村敬次リチャード先生の引率のもと3月8日から8日間、中国医科歯科大学口腔医学院への海外研修に参加させていただきました。

中国医科歯科大学がある瀋陽は中国北東部に位置する長い歴史を持つ都市です。瀋陽の街中には現在でも戦前日本人によって建設された建物が多く残っています。中国医科歯科大学では盧院長をはじめ日本に留学経験のある先生がおられました。そのため、日本との関わりを強く感じました。

1週間の研修のうち、4日間は中国医科歯科大学の附属病院で診療の見学をさせていただきました。総合歯科、病理診断科、歯周病科、保存科、補綴科、矯正科、小児歯科、口腔外科の八つの科を見学しました。治療方法、使用している材料、教科書の内容はほとんど日本と一緒でした。このことから医療に国境はないと改めて思いました。

見学している時に治療方法について各科の先生に丁寧に説明してもらいました。補綴科を見学したときに支台歯形成の仕事を丁寧に図に描いて説明していただきました。病理診断科では、病理組織画像を見てエナメル上



よりも歯並びに対する意識が高く、ほとんどの人が矯正を行うとのこと、慶熙大歯学部の矯正科もとても多くの患者さんが受診されています。そこでは唇側矯正や舌側矯正に加え、インプラントアンカーの積極的な使用、歯に微弱な振動を加え矯正期間を短くするための装置や、3Dカメラで顔面の撮影を行い、実際に矯正を行ってどれ位顔貌に変化が現れたかを客観的に患者が把握できるようにしており、新しい治療方法にとっても意欲的であるように思いました。

大学附属病院では、韓方科という、西洋医学と並行して漢方を用いた治療も行っており、漢方を調合、抽出している場所の見学もさせていただきました。そこでは入院の方から外来まで、多くの患者さんに処方しており、韓国では一般的な治療であるとのことでした。

今回、慶熙大歯学部へは学生4名だけの研修というところでとても不安でしたが、慶熙大歯学部の先生方や多くの学生さんの支えがあり無事に8日間の研修を終えることが出来ました。特に今年の2月に福岡歯科大学に研修に来た学生さんたちが本場に私達のために尽くしてくれ、空港に着いた時から帰る時まで全力でサポートして下さい、いくらお礼を言っても足りないほどです。今回の研修を通し、日本では得られない貴重な体験や様々な大切な人との出会いをさせていただきました。このような本場に素晴らしい機会を与えて下さったことに感謝し、この経験を活かしていけるようにより一層努力したいと思えます。本当にありがとうございました。

渡邊 里紗



皮膚について話したりしました。また、私たちも先生、大学院生に質問することができ、有意義な病院見学となりました。1年間の登院実習で培ってきた知識が非常に役に立ちました。

また、今回の研修中、福岡歯科大学での研修を希望している学生6名と交流することができました。彼らは忙しい中、私たちのために多くの時間を割いて、夕食や瀋陽の街を案内してくれました。彼らと話すうち、彼らの勉学に対する姿勢に圧倒されました。歯学だけではなく英語力についても圧倒されました。今回の研修で私たちは多くのことに刺激を受け、歯科医師を志す仲間に出会えることができ、幸せに思います。

1週間という短い期間でありましたが毎日有意義な時間を過ごすことができました。中国医科歯科大学の盧院長をはじめ、医局の先生方、職員の曲さん、交流をして友達になれた学生たちに温かく迎え入れてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。そして引率していただいた山崎純先生、木村敬次リチャード先生、また研修の機会を与えてくださった福岡歯科大学の先生方に心から感謝いたします。

受田 直樹



上海交通大学口腔医学院

3月15日から22日までの8日間、私たち森岡直子、原麻莉、塩次雄史、矢壁勇人、石井華子の6年生5名は、早川浩先生の引率のもと上海交通大学への海外研修に参加させていただきました。

上海交通大学は中国でも有数の有名大学で、私たちはその附属病院である第九人民医院を見学しました。この病院の歯科には1日に5000人以上の患者さんが来院し、その数は中国で二番目に多いそうです。朝早くから診察してもらうために、多くの患者さんが中国全土から訪れます。私たちが訪れる1週間前に病院が移転したばかりで、その新しい病院を見学させていただきました。現地の6年生の案内のもと、総合歯科、予防歯科、粘膜科、小児歯科、歯周病科、保存科、口腔外科などを見学しました。特に口腔外科は口腔外科、口腔顎顔面科、口腔腫瘍科に分かれており、中国全土から重篤な患者さんが集まります。日本と違い、診療室へ家族と一緒に入り、はっきりと自己主張をする患者さんを見て、私たちは最初圧倒されていました。そんな病院の中で、学生たちは学生専用のユニットで、先生の指示のもと実際に患者さんの診療にあたりていました。

また、学生たちが実習を行ったり、授業を受けたりする大学も見学しました。素晴らしい設備のなか、中国の歯科医療のリーダーとなるべく勉強に励んでいました。大学内に寮も完備されていて、ほとんどの学生が寮と大学を忙しく行き来する生活をしています。特に驚いたのは、豚の下顎骨を用いて拔牙を、抜去歯牙を埋め込んだ石膏模型で根管治療を練習していたことです。様々なものを用いてより実践に近い実習が行われ

ており、感動しました。

また、空き時間には上海交通大学の学生さんに食事や観光に連れて行っていただきました。最新の高層ビルや古くからある街並みが混在する上海はとても興味深い都市でした。上海交通大学の学生さんはとても優しく、すぐ打ち解けることができ、とても楽しく過ごせました。滞在中は張先生、孫さんをはじめとする皆さまに大変お世話になり、素晴らしい時間を過ごせました。9月に上海交通大学の学生さんが本学にいらっしゃるのを楽しみにしています。

私たちは今回の研修を通して、日本ではできない経験をし、海外の同じ目標をもつ友人を作ることができました。このような機会を与えてくださった皆様に感謝し、この経験を生かせるように日々努力していきたいと思っています。

石井華子



ブリティッシュコロンビア大学歯学部

4月19日。日本とは違い湿度を感じない晴天の下、新郷雅史、國廣実希、合屋健、安田梨沙の4名はカナダバンクーバー空港に降り立ちました。学生の自主性を尊重とのことでの出迎えなどなく、まずはモノレールの切符の買い方と駅を慣れない英語で尋ね、市内へ向かったのはいいのですが、当日はマラソン大会のため中心部は歩行者天国に！ようやく見つけたバスも運休になっており、結局、20キロあるスーツケースを各自、転がしながら30分ほど歩いて辿り着く、そんなハプニングからスタートしました。

カナダでは大学（一般的に4年間）を卒業し、それから歯学部（4年間）に入学するそうです。私達が2週間研修を行ったブリティッシュコロンビア大学歯学部のOral Health Centreは、「学生が患者を診る」と明記した研修施設でした。カナダでは歯科治療が高額であり、ここでは市内の歯科医院より3割程度安く治療できますが、学生がそれぞれ患者を受け持ち、治療をしています。初診の各検査からCRや義歯作製は勿論、拔牙、矯正、最終学年ではインプラントまでこなしていることは驚きでした。指導医は各ユニットをまわり、アドバイスをします。私たちも各ユニットを回り、色々な症例を見せてもらいましたが、彼らは丁寧の説明してくれました。また、「日本はどうしている？」「君ならどう治療する？」と質問を受けたりもしました。日本ではもう行っていないアマルガムの実習が見られたり、また学生の好意で、初診の患者さんの口腔内診査から治療計画のコンサルまで携わることができ、貴重な体験をすることができました。

バンクーバーは大都市ですが、緑も多く、

人々も親切でした。料理も美味しく（特に魚介類はオススメです！）、エンターテインメントも楽しめ、とても過ごしやすい街でした。勉強と観光と異文化との触れ合いと毎日やりたいことが沢山あり、2週間の滞在は充実していて、あっという間に過ぎて行きました。

最後に、後輩の皆さんへ。もし海外研修を迷っているなら、ぜひ参加してみることをお勧めします。そして出来るなら英語力を鍛えておいた方が、行動にもコミュニケーションにも幅が広がると思います。このような機会を与えて下さった先生方と家族に感謝しています。ありがとうございました。

安田梨沙



平成26年度事業報告および決算

学園運営 平成26年度(第43期) 事業報告の概要

1 口腔医学の学問体系の確立育成について

口腔医学教育・口腔医療の確立育成のフロントランナーとして、10年余の實踐に努めました。健康長寿社会を支えるため大学改革に取り組み、理事の意向を社会に広めるため、理事長、常務理事、学長等が文部科学省との関係者に理解と協力を得るよう要請を行いました。また、文部科学省選定の戦略的学問連携事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」(助成期間は平成20年・22年度)については、助成期間を含めた10年間の事業として、今年度は関東地区の神奈川歯科大学が担当校となり実施した口腔医学シンポジウム(歯周病・歯周病と全身疾患(病診連携による生活習慣病対策))において一般の方も多数参加していただきました。

2 教育の改善・充実等について

(1)教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学の支援として今年度より新たに開始された「大学教育再生加速プログラム(A.P.)」(文部科学省実施)で、福岡歯科大学は「M」教育支援成果の可視化に採択され、教育支援センターを新設し、学術力として修得すべき能力の適合性を分析して視化する学生の修学支援に活かすための支援を受けました。福岡歯科大学は「M」教育支援センターを新設し、学術力として修得すべき能力の適合性を分析して視化する学生の修学支援に活かすための支援を受けました。福岡歯科大学は「M」教育支援センターを新設し、学術力として修得すべき能力の適合性を分析して視化する学生の修学支援に活かすための支援を受けました。

3 研究の活性化について

(1)研究業績として、専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は、福岡歯科大学は151編(うち英文75編)、福岡歯科大学は13編(うち英文1編)でした。(2)文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的な研究を推進しました。(3)先端科学研究センターでは、5年計画の研究「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」が新たに文部科学省から採択され、これまでの研究をさらに発展させて、疾患の発症と進展をより正確に制御する方策の確立に向けて研究を開始しました。(4)再生医学研究センターでの研究「生体内環境を調和する硬組織再生システム」は、5年計画の最終年度に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、これまでの研究

め引き続き支援を受けました。(3)大学においては、臨床実習充実のため、医科歯科総合病院に教育用医療デジタル画像作成及び配信システムを整備したほか、病院3階の学生技工室を第2総合診療室に改修し、教育実習用エアーユニット12台、各ユニットを監視する装置を整備し、トレーニングセンターを設置しました。(4)短大においては、本学園の医科歯科総合病院、口腔医療センター、介護施設サンシャインシティ、サンシャインプラザ(社会福祉法人会)との協力により、より実践的な臨床臨床地実習の充実、2教員の資質向上、3)大科では介護福祉士養成校の中で福岡県初の「二医療的ケア実地研修機関」の認定に向けて準備をしました。

(5)教員の教育能力および教育の質等の向上について、大学では1)学生支援の充実、2)教員の資質向上、3)大学院および研究の活性化に関するFDおよび大改革推進事業の取組としてFSD/FDクラブを実施し、短大では毎月1回のFD講演会、産業界GPおよびA.P.の取組として2つの特別FD講演会を実施しました。(6)第108回歯科医師国家試験は、既卒者を含めた総合合格率が57.0%、全国平均59.9%でした。今後は教育支援センター等における分析・検討に基づき、国試対策の一層の向上に努めます。また、短大の「第24回歯科衛生士国家試験」は合格者率99.6%(全国平均95.9%)で受験者89名のうち86名が合格し、3名が不合格でした。

(7)研究業績として、専任教員の総論文数(著書、総説、原著論文、症例報告等)は、福岡歯科大学は151編(うち英文75編)、福岡歯科大学は13編(うち英文1編)でした。(8)文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された3つの事業を中心として、先端的な研究を推進しました。(9)先端科学研究センターでは、5年計画の研究「疾患の発症と進展を抑制する分子基盤」が新たに文部科学省から採択され、これまでの研究をさらに発展させて、疾患の発症と進展をより正確に制御する方策の確立に向けて研究を開始しました。(10)再生医学研究センターでの研究「生体内環境を調和する硬組織再生システム」は、5年計画の最終年度に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、これまでの研究

成果を報告書として取り纏めて文部科学省に提出し、2名の専門査定委員による最終評価結果として、A-Cの三段階評価でAおよびBの評価を受けました。(11)介護老人保健施設は、地域病院の抑制と疾患の制御における環境ストレスとケアの応答(2)は、3年目の評価において、これまでの研究成果を取り纏めて文部科学省へ提出し、2名の専門査定委員によるA-Cの三段階評価でAおよびBの評価を受けました。(12)科学研究費助成事業において、大学は新規採択件数20件(前年比4件減)、短大は3件(前年同値)となり、約1億円を獲得しました。

(13)科学研究費助成事業において、大学は新規採択件数20件(前年比4件減)、短大は3件(前年同値)となり、約1億円を獲得しました。(14)学生支援等について、大学では、講義録システムを主要な教室に増設したほか、学内どこからでも蔵書図書情報が検索できる「図書館閲覧システム」および「セキユリティシステム」を整備し、学生の自己学習体制を充実させました。(15)短大では、福岡県歯学医療関係職員配置促進事業の助成を受け、実習用ユニット9台をリニアル、専門教育の推進に努めました。

(16)新設した地域連携センターでは、公開講座、出前講座、生涯研修、セミナー等を開催し、地域社会の健康維持増進に貢献。最新医療情報の発信等に努めました。また、歯科医師会と連携して無医地区での歯科検診実施を検討。超高齢地区で健康教室等の実施、総合病院と連携して入院患者の口腔ケアの実施など、健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に努めました。(17)医科歯科総合病院では、医科と歯科がそれぞれ別病院長を配置し、管理体制の充実を図りました。また、サービスマン向上の対策として「新病院情報システム」の円滑な運用を自動構築するため「医療情報室」を設置し、自動構築機能、POSSシステムを導入したほか、防災保険指定医療機関の指定を受けました。なお、1日平均の外来患者数は63,633人で前年度比28%増、入院患者数は29,9人で21%増となりました。病院改築計画については、新医科歯科総合病院改築委員会において引き続き検討を重ねています。

(18)口腔医療センターは、地域医療への貢献のため歯科医師、歯科衛生士の充実を図り、年間患者総数は28,852人(前年比16.2%増)、1日平均患者数は1,077.5人となりました。(19)介護老人保健施設は、地域病院の抑制と疾患の制御における環境ストレスとケアの応答(2)は、3年目の評価において、これまでの研究成果を取り纏めて文部科学省へ提出し、2名の専門査定委員によるA-Cの三段階評価でAおよびBの評価を受けました。(20)科学研究費助成事業において、大学は新規採択件数20件(前年比4件減)、短大は3件(前年同値)となり、約1億円を獲得しました。

(21)学生支援等について、大学では、講義録システムを主要な教室に増設したほか、学内どこからでも蔵書図書情報が検索できる「図書館閲覧システム」および「セキユリティシステム」を整備し、学生の自己学習体制を充実させました。(22)短大では、福岡県歯学医療関係職員配置促進事業の助成を受け、実習用ユニット9台をリニアル、専門教育の推進に努めました。(23)学生募集について、平成27年度入学者数は、口腔歯学部衛生系入学者96名に対し96名、短大歯学部衛生系入学者80名に対し80名、保健福祉系入学者40名に対し27名となりました。(24)新設した地域連携センターでは、公開講座、出前講座、生涯研修、セミナー等を開催し、地域社会の健康維持増進に貢献。最新医療情報の発信等に努めました。また、歯科医師会と連携して無医地区での歯科検診実施を検討。超高齢地区で健康教室等の実施、総合病院と連携して入院患者の口腔ケアの実施など、健康長寿社会の構築および地域社会の活性化に努めました。(25)医科歯科総合病院では、医科と歯科がそれぞれ別病院長を配置し、管理体制の充実を図りました。また、サービスマン向上の対策として「新病院情報システム」の円滑な運用を自動構築するため「医療情報室」を設置し、自動構築機能、POSSシステムを導入したほか、防災保険指定医療機関の指定を受けました。なお、1日平均の外来患者数は63,633人で前年度比28%増、入院患者数は29,9人で21%増となりました。病院改築計画については、新医科歯科総合病院改築委員会において引き続き検討を重ねています。

学校法人福岡学園の事業報告および決算が、5月26日開催の理事会、評議員会で承認されました。その概要は次のとおりです。

1 資金収支計算書

収入の部では、学生生徒等納付金収入29億9,166万円、補助金収入6億3,717万円、事業収入2億9,745万円など、12億2,222万円となり、これに前年度繰越支払資金7億3,055万円を加えた収入合計は12億7,528万円となりました。一方、支出の部では、人件費支出38億5,680万円、教育研究経費支出15億5,085万円、施設関係支出7億7,070万円、設備関係支出7億3,568万円など、11億8,253万円となり、収入合計から差し引いた次年度繰越支払資金は9億2,747万円となりました。主な内容は次のとおりです。

【収入の部】

- (1)学生生徒等納付金収入は、在籍学生数を基に補正したことにより、概ね予算額と同額の29億9,166万円となりました。
- (2)補助金収入は、経常費補助金3億1,308万円、施設整備費補助金1億7,157万円、大学改革推進等補助金4,716万円、臨床研修費等補助金5,292万円など、概ね予算額と同額の6億2,747万円となりました。
- (3)事業収入は、病院医療収入の増により前年度比1億4,855万円の増収となり、概ね予算額と同額の21億9,475万円となりました。このうち、病院医療収入は15億6,088万円、口腔医療センター医療収入は2億2,164万円、老健施設介護収入は4億3,533万円となりました。

【支出の部】

- (1)人件費支出は、退職金の増加等により前年度比2億8,855万円の増となり、概ね予算額と同額の3億3,568万円となりました。
- (2)教育研究経費支出は、病院診療経費の増加等により前年度比7,639万円の増となりましたが、予算額を1億2,799万円下回る15億5,085万円となりました。このうち、教育及び研究に係る経費は5億8,002万円、病院及び口腔医療センターに係る経費は8億1,434万円、老健施設に係る経費は1億1,072万円となりました。
- (3)管理経費支出は、社会福祉法人への寄附金1億5,000万円を支出したことにより、前年度比1億8,345万円の増となりましたが、予算額を5,946万円下回る4億1,041万円となりました。
- (4)施設関係支出は、節水型トイレ改修工事、病院3階第2総合診療室改修工事等を実施したことにより、予算額を

2 消費収入の部

消費収入の部では、帰属収入合計は69億3,281万円となり、基本金組入額合計11億9,253万円を差し引いた消費収入合計は57億4,028万円となりました。一方、消費支出の部では、消費支出合計は63億5,800万円となり、消費収入合計からこれを差し引いた当年度消費支出超過額は6億1,722万円となりました。これを前年度繰越消費収入超過額8億5,587万円と基本金取崩額9,085万円を加えた額から差し引いた翌年度繰越消費収入超過額は1億9,694万円となりました。また、人件費比率は55.0%、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は5億7,481万円、帰属収支差額は5億7,481万円、財務の健全性を維持しています。

3 貸借対照表

資産の部合計は、第2号基本金引当資産への組入れのための債券購入等により前年度比5億9,171万円増の60億1,276万円となりました。負債の部合計は、退職給付引当金等で前年度比1億9,000万円増の24億4,578万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金の組入れ5億6,566万円、第2号基本金引当資産への組入れ6億円等により前年度比11億8,345万円増の57,448,847万円となりました。消費収支差額の部合計は、前年度比6億8,647,000円減の1億9,695万円となりました。

4 財産目録

資産の部は、土地、建物等の基本財産45億7,101万円と減価償却引当特定資産等の運用財産14億4,174,550万円の合計で60億1,276,651万円となりました。負債の部合計額は、社会福祉法人への寄附金1億5,000万円を支出したことにより、前年度比1億8,345万円の増となりましたが、予算額を5,946万円下回る4億1,041万円となりました。

平成26年度(第43期) 決算の概要

平成26年度の資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要は次のとおりです。

平成26年度(第43期)資金収支決算総括表 (平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(単位:円)

収入の部					
科 目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
学生生徒等納付金収入	2,991,135,000	25.98	2,991,656,500	24.88	△ 521,500
手数料収入	24,818,000	0.22	23,804,340	0.20	1,013,660
寄附金収入	47,786,000	0.41	56,024,883	0.47	△ 8,238,883
補助金収入	633,817,000	5.50	603,708,348	5.02	30,108,652
国庫補助金収入	633,817,000	—	584,739,000	—	49,078,000
地方公共団体補助金収入	0	—	18,969,348	—	△ 18,969,348
資産運用収入	806,460,000	7.00	860,667,231	7.16	△ 54,207,231
資産売却収入	600,000,000	5.21	1,026,734,000	8.54	△ 426,734,000
事業収入	2,247,549,000	19.52	2,197,451,504	18.28	50,097,496
雑収入	145,923,000	1.27	179,074,134	1.49	△ 33,151,134
前受金収入	377,100,000	3.27	424,423,550	3.53	△ 47,323,550
その他の収入	4,413,408,000	38.33	4,714,552,922	39.22	△ 301,144,922
資金収入調整勘定	△ 773,242,000	△ 6.71	△ 1,055,829,161	△ 8.79	282,587,161
(小計)	(11,514,754,000)	(100.00)	(12,022,268,251)	(100.00)	(△ 507,514,251)
前年度繰越支払資金	730,549,000	—	730,549,007	—	△ 7
収入の部合計	12,245,303,000	—	12,752,817,258	—	△ 507,514,258

支出の部					
科 目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
人件費支出	3,852,233,000	32.49	3,835,679,518	32.44	16,553,482
教育研究経費支出	1,633,075,000	13.77	1,505,084,583	12.73	127,990,417
管理経費支出	469,876,000	3.96	410,414,606	3.47	59,461,394
施設関係支出	45,360,000	0.38	70,695,200	0.60	△ 25,335,200
設備関係支出	717,852,000	6.05	735,683,971	6.22	△ 17,831,971
資産運用支出	4,910,784,000	41.42	5,326,494,000	45.04	△ 415,710,000
その他の支出	423,703,000	3.57	436,727,999	3.69	△ 13,024,999
[予備費]	(131,640,000)	—	—	—	168,360,000
資金支出調整勘定	△ 363,900,000	△ 3.06	△ 495,430,011	△ 4.19	131,530,011
(小計)	(11,857,343,000)	(100.00)	(11,825,349,866)	(100.00)	(31,993,134)
次年度繰越支払資金	387,960,000	—	927,467,392	—	△ 539,507,392
支出の部合計	12,245,303,000	—	12,752,817,258	—	△ 507,514,258

平成26年度(第43期)消費収支決算総括表 (平成26年4月1日~平成27年3月31日)

(単位:円)

消費収入の部					
科 目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
学生生徒等納付金	2,991,135,000	43.30	2,991,656,500	43.15	△ 521,500
手数料	24,818,000	0.36	23,804,340	0.34	1,013,660
寄附金	57,786,000	0.84	68,952,103	0.99	△ 11,166,103
補助金	633,817,000	9.18	603,708,348	8.71	30,108,652
国庫補助金	633,817,000	—	584,739,000	—	49,078,000
地方公共団体補助金	0	—	18,969,348	—	△ 18,969,348
資産運用収入	806,460,000	11.68	860,667,231	12.41	△ 54,207,231
事業収入	2,247,549,000	32.54	2,197,451,504	31.70	50,097,496
雑収入	145,923,000	2.10	186,568,130	2.70	△ 40,645,130
(帰属収入合計)	(6,907,488,000)	(100.00)	(6,932,808,156)	(100.00)	(△ 25,320,156)
基本金組入額合計	△ 1,336,082,000	—	△ 1,192,527,883	—	△ 143,554,117
消費収入の部合計	5,571,406,000	—	5,740,280,273	—	△ 168,874,273

消費支出の部					
科 目	予 算		決 算		差 異 金 額
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	
人件費	3,791,334,000	56.72	3,812,485,443	59.96	△ 21,151,443
教育研究経費	2,163,797,000	32.37	2,031,312,254	31.95	132,484,746
管理経費	560,507,000	8.39	498,277,656	7.84	62,229,344
資産処分差額	0	0.00	15,411,766	0.24	△ 15,411,766
徴収不能引当金繰入額	0	0.00	366,712	0.01	△ 366,712
徴収不能額	0	0.00	145,668	0.00	△ 145,668
[予備費]	(131,640,000)	—	—	—	168,360,000
(消費支出の部合計)	(6,683,998,000)	(100.00)	(6,357,999,499)	(100.00)	(325,998,501)
当年度消費支出超過額	1,112,592,000	—	617,719,226	—	△ 494,872,774
前年度繰越消費収入超過額	805,584,000	—	805,584,281	—	△ 281
基本金取崩額	0	—	9,080,302	—	△ 9,080,302
翌年度繰越消費収入超過額	0	—	196,945,357	—	△ 196,945,357
翌年度繰越消費支出超過額	307,008,000	—	0	—	△ 307,008,000

貸借対照表 (平成27年3月31日)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(58,534,413,365)	(58,110,971,777)	(423,441,588)
有形固定資産	(11,222,019,655)	(11,355,174,476)	(△ 133,154,821)
土地	2,794,826,882	2,853,955,052	△ 59,128,170
建物	4,745,709,668	4,918,709,127	△ 172,999,459
構築物	190,421,953	201,633,774	△ 11,211,821
教育研究用機器備品	1,781,898,691	1,722,685,069	59,213,622
その他の機器備品	54,048,067	32,977,376	21,070,691
図書	1,650,610,600	1,623,078,622	27,531,978
車輛	4,503,794	2,135,456	2,368,338
その他の固定資産	(47,312,293,710)	(46,755,797,301)	(556,596,409)
電話加入権	1,705,991	1,705,991	0
敷金保証金	59,138,900	59,138,900	0
教育研究用ソフトウェア	305,594,308	2,236,500	303,357,808
その他のソフトウェア	23,976,000	4,282,110	19,693,890
有価証券	103,190,950	507,254,950	△ 404,064,000
長期前払金	10,738,711	0	10,738,711
退職給付引当特定資産	1,663,500,000	1,663,500,000	0
減価償却引当特定資産	8,000,000,000	8,000,000,000	0
施設設備充実引当特定資産	3,000,000,000	3,000,000,000	0
第2号基本金引当資産	10,222,008,850	9,622,008,850	600,000,000
第3号基本金引当資産	23,502,540,000	23,475,670,000	26,870,000
第4号基本金引当資産	420,000,000	420,000,000	0
流動資産	(1,593,187,294)	(1,424,923,661)	(168,263,633)
現金預金	927,467,392	730,549,007	196,918,385
未収入金	607,574,921	638,157,700	△ 30,582,779
貯蔵品	2,833,912	2,919,531	△ 85,619
前払金	54,970,372	53,030,318	1,940,054
立替金	340,697	267,105	73,592
資産の部合計	60,127,600,659	59,535,895,438	591,705,221

負債の部 (単位:円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	(1,381,912,610)	(1,428,038,808)	(△ 46,126,198)
退職給付引当金	1,379,731,991	1,410,042,356	△ 30,310,365
長期未払金	2,180,619	8,656,452	△ 6,475,833
長期前受金	0	9,340,000	△ 9,340,000
流動負債	(1,063,871,170)	(1,000,848,408)	(63,022,762)
未払金	471,061,281	391,562,241	79,499,040
前受金	433,763,550	449,681,700	△ 15,918,150
預り金	159,046,339	159,604,467	△ 558,128
負債の部合計	2,445,783,780	2,428,887,216	16,896,564

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	23,340,322,672	22,783,745,091	556,577,581
第2号基本金	10,222,008,850	9,622,008,850	600,000,000
第3号基本金	23,502,540,000	23,475,670,000	26,870,000
第4号基本金	420,000,000	420,000,000	0
基本金の部合計	57,484,871,522	56,301,423,941	1,183,447,581

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	196,945,357	805,584,281	△ 608,638,924
消費収支差額の部合計	196,945,357	805,584,281	△ 608,638,924

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	60,127,600,659	59,535,895,438	591,705,221

財産目録総括表 (平成27年3月31日)

資産の部		金 額
I. 基本財産		45,710,150,362
固定資産		45,710,150,362
(1) 有形固定資産		11,193,036,313
(2) その他の固定資産		34,517,114,049
II. 運用財産		14,417,450,297
1. 固定資産		12,824,263,003
(1) 有形固定資産		28,983,342
(2) その他の固定資産		12,795,279,661
2. 流動資産		1,593,187,294
資産の部合計		60,127,600,659

負債の部 (単位:円)

負債の部		金 額
I. 固定負債		1,381,912,610
退職給付引当金		1,379,731,991
長期未払金		2,180,619
II. 流動負債		1,063,871,170
未払金		471,061,281
前受金		433,763,550
預り金		159,046,339
負債の部合計		2,445,783,780
差引正味財産		57,681,816,879
負債の部合計及び差引正味財産合計		60,127,600,659

※資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするもの
 ※消費収支計算書：民間企業の損益計算書に該当するもので、財政の健全化を測定する尺度となるもの
 ※貸借対照表：当該会計年度末の資産及び負債・基本金・消費収支差額の状況を表すもの
 ※帰属収入：学生生徒等納付金、寄附金、補助金その他の学校法人の負債とならない収入

※消費支出：人件費、教育研究経費、管理経費などの学校法人の経常的支出
 ※人件費比率：(人件費/帰属収入)×100
 ※帰属収支差額比率：[(帰属収入-消費支出)/帰属収入]×100

「学校法人福岡学園田中健藏基金」設立、ご遺族に感謝状贈呈

去る、2月11日に逝去された田中健藏前理事長のご遺族より、本学園の口腔医学に係る教育・研究の充実に寄与することを目的として、多額のご寄付をいただきました。

これを受けて、本学園では新たに「学校法人福岡学園田中健藏基金」を設立し、故田中前理事長が先頭に立ち取り組んでこられた「口腔医学」のさらなる発展を目指し、①口腔医学の創設・育成を推進するために必要な事業、②その他教育、研究の充実に必要な事業の一助とすることといたしました。

今回のご寄付に対し、6月2日、水田祥代理事長からご遺族へ感謝状が贈呈されました。



平成27年度科学研究費助成事業交付内定一覧 新規採択者

独立行政法人日本学術振興会から交付される平成27年度の科学研究費助成事業対象研究等が次のとおり決定しました。

研究種目	研究代表者所属/氏名	研究課題名	研究種目	研究代表者所属/氏名	研究課題名	研究種目	研究代表者所属/氏名	研究課題名	
基礎研究B	口腔歯学部 岡部 幸司 教授	TRP分子による歯牙石灰化機構の解明	基礎研究C	口腔歯学部 准教授 山本 雄次	エナメル質のロイシンリッチプロテインは破骨細胞分化に関わるか	挑戦的萌芽研究	※歯科衛生学 教授 井上 勇介	人工歯質、プロタミンから合成した抗菌性複合体による口腔細菌抑制と口腔ケア向上	
	口腔歯学部 田中 芳彦 教授	病原微生物と口腔医学からみた歯周病感受性の分子基盤		口腔歯学部 准教授 長 環	ヒト口腔粘膜常在微生物に応答する粘膜免疫の全身制御機構の解明		※歯科衛生学 教授 井上 勇介	嚥下機能に影響をおよぼす顎顔面骨格・舌骨・咽頭腔の構造的要因を探る	
	口腔歯学部 沢 根 彦 教授	口腔微生物由来血中TLRリガンドによる糖尿病性腎症の発症機構の解明と予防への展開		口腔歯学部 講師 磯 治 浩	新規骨誘導性DNAスcaffoldsによる骨形成促進作用メカニズムの解明		※歯科衛生学 准教授 丸 丸 哲也	認知機能の向上を促す口腔ケアプログラムの構築	
	口腔歯学部 佐 生 正 博 教授	中英語夢幻視物語とダンテ「神曲」の異界描写および写本画像を対象とする比較研究		口腔歯学部 講師 香 川 豊 宏	リアルタイムシミュレーション技術を用いた学習支援システムの開発		※保健福祉学 教授 大 倉 義 文	脳神経刺激を介する大脳前頭野活性化の解析と認知機能リハビリテーションへの展開	
	口腔歯学部 山 山 純 子 助教	Piezoelectricsを用いた口腔粘膜上皮におけるメカノセンサーPiezoの発現と機能調節		口腔歯学部 准教授 泉 利 雄	生体活性ガラス、αTCPおよびポリグルタミン酸からなる歯内治療用セメントの創製		若手研究B	口腔歯学部 講師 晴 佐 久 悟	事前インターネット教育と事後フィードバック教育を合わせた健康教育プログラムの開発
	口腔歯学部 八 田 光 世 講師	上皮ケラチノサイトにおけるクロマチン制御転写因子FoxO1の役割		口腔歯学部 助教 松 本 典 祥	アモロゲンと生体活性ガラスを併用した骨組織再生療法の開発			口腔歯学部 助教 中 島 一 記	細胞伸張装置を用いた疑似的歯根膜におけるオキシタンパク質の形成と配列の機序の解明
	口腔歯学部 岡 本 富 士 雄 講師	破骨細胞Ca2+活性化K+チャネルの骨吸収シグナル制御分子としての機能解明		口腔歯学部 准教授 松 浦 高 志	骨粗鬆症に特有なコラーゲン翻訳後修飾のメカニズム—新規顎骨骨質マーカーの選出—		口腔歯学部 講師 藤 兼 亮 輔	新規ミスマッチ依存アポトーシス制御因子の同定による発がん抑制機構の解明	
	口腔歯学部 佐 藤 博 信 教授	歯肉退縮予防のための歯肉の質的評価法の確立		口腔歯学部 講師 丸 田 道 人	生体吸収性を制御したαβTCPインジェクタブル骨埋め材の創製		口腔歯学部 助教 西 村 紗 和	小児がんの治療が口腔健康に与える影響の解明	
	口腔歯学部 城 戸 寛 史 教授	インプラント治療におけるIPS細胞を用いた再生骨の長期安全性に関する研究		口腔歯学部 教授 石 川 博 之	創傷治癒促進モデルを用いた口腔手術後癒着形成の制御に関する研究		口腔歯学部 助教 加 地 千 晶	口腔微生物由来TLRリガンドによる糖尿病性正常圧水頭症の発症機構	
	口腔歯学部 梶 井 貴 史 准教授	ゲノムワイド関連解析から得た顎顔面変形症感受性領域のハプロタイプ同定		口腔歯学部 教授 尾 崎 正 雄	口腔粘膜への炭酸ガスレーザー照射による創傷治癒促進効果の病理組織学的解明		口腔歯学部 助教 藤 本 暁 江	プロバイオティクスが口腔健康に与える影響の解明	
口腔歯学部 内 藤 徹 教授	眼窩集落をモデルとした地域在住高齢者の口腔・認知機能・栄養に関する総合的研究	口腔歯学部 准教授 吉 永 泰 周	老化促進因子C1qによるWntシグナル活性化を基盤とした歯周炎発症機序の解明	口腔歯学部 助教 鬼 村 朋 宏	FGFシグナル抑制因子Sprouty2による骨芽細胞増殖・分化制御機構の解析				
口腔歯学部 福 井 哲 一 朗 教授	タイト結合膜蛋白クローディングの扁平上皮癌に対する抑制効果の三次元培養での検証	口腔歯学部 助教 大 城 希 美 子	歯周病罹患破骨細胞が脂質異常により受ける影響の解明	口腔歯学部 助教 加 藤 智 崇	大規模多施設間での歯科治療・メンテナンス中断の原因及び患者背景の質的・定量的解析				
口腔歯学部 橋 本 修 一 教授	肺癌におけるR-spondin-Lgr6シグナル系の発現・機能解析	口腔歯学部 教授 植 岡 隆	禁煙指導・禁煙支援のウェブベースの卒前臨床教育・卒後生涯研修プログラムの開発	口腔歯学部 講師 水 尾 潤 一	全身での免疫応答による口腔内真菌の選択的制御機構の解明				
口腔歯学部 大 星 博 明 教授	自然免疫を標的とする脳梗塞治療の研究	※歯科衛生学 准教授 後 藤 加 寿 子	SDF-1による咬合性外傷抵抗性の顎骨骨質維持作用の探索	口腔歯学部 助教 森 南 奈	サイトカイン・細胞接着タンパク質共役型DNAスcaffoldsの創製				
口腔歯学部 准教授 福 島 秀 文	Notch2 Hajdu-Cheney 症候群型変異の病態分子機構の解明	口腔歯学部 教授 山 崎 純	未分化上皮細胞選択的スライニングによる多機能性発現の分子基盤	口腔歯学部 助教 濱 中 一 平	CAD/CAMを応用した部分床義歯製作方法の開発				
口腔歯学部 講師 松 崎 英 津 子	脂質メタボラーによる間葉系幹細胞分化機構の解明と硬組織再生治療への臨床的展開	口腔歯学部 教授 田 中 芳 彦	新規シグナル伝達分子によるアレルギー抑制機構の解明を目指した挑戦的研究	口腔歯学部 講師 川 口 智 弘	セルロースナノファイバーを用いた高強度義歯床用レジンの開発				
口腔歯学部 金 子 高 士 教授	歯周病原細菌排除におけるカスパーゼの役割と炎症反応制御に関する研究	口腔歯学部 教授 岡 部 幸 司	チャネルキナーゼTRPM7を介する骨Mg2+代謝機構の解明	口腔歯学部 助教 荒 平 高 章	動的培養と二層構造型足場材による人工軟骨・骨組織の創製				
口腔歯学部 准教授 谷 口 奈 央	喫煙による舌苔細菌叢の変化が口腔に及ぼす影響	口腔歯学部 准教授 岡 崎 子	歯の再生治療モデルマウスを用いた歯根膜再生への試み	口腔歯学部 助教 北 河 憲 雄	「癌細胞 vs. 正常細胞の最前線」細胞融合におけるタイト結合の役割の研究				
口腔歯学部 医員 大 家 知 子	機能性ガラス溶出液による細菌酵素活性および共凝集活性の抑制	口腔歯学部 准教授 渡 辺 猛	口腔と全身の関係によるプロフェッショナルリズムの臨床教育開発研究	口腔歯学部 助教 堤 貴 司	骨ミネルラル輸送体TRPM7を介した歯槽骨形成及び再生機構の解明				
口腔歯学部 教授 廣 藤 卓 雄	高齢者の口腔管理とプロバイオティクスに関する研究	※保健福祉学 講師 秋 竹 純	介護従事者による高齢者虐待・不適切ケア発防止につながる新たな自己評価シート開発	口腔歯学部 助教 秦 省 三 郎	創傷治癒モデルを用いた口腔手術後癒着形成を抑制する薬剤的アプローチ				
口腔歯学部 准教授 徳 本 正 憲	血管石灰化退縮治療の検討			研究活動支援					

注) 所属講座の※印は、福岡医療短期大学所属教員を示します。
 科学研究費助成事業(科研費)は、文部科学省、日本学術振興会が行っている「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、厳密な審査を経て、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対して助成が行われるものです。研究課題が科研費に採択されることは、他の専門研究者から高い評価を得たことを意味し、研究者にとって研究論文と共に重要な業績になっています。

厚生労働科学研究事業において佐藤博信教授の研究課題が採択されました

平成27年度地域医療基盤開発推進研究事業「歯科技工業の業務形態の実態把握に関する研究」に本学佐藤博信教授の研究課題が採択されました。この研究事業は、近年の歯科技工業における新技術(CAD/CAM)等のIT技術の活用や歯科技工業等製作の国際発展など

により多様化している状況の中、歯科技工業の業務形態等の実態把握を行うことにより、こうした現状や方向性等について検証を行うことを目的としております。この課題は採択件数が10件となっており、佐藤教授の今までの実績等が高く評価されました。

教員紹介

新任客員教授

樋口 勝規



高齢社会や医療の高度化に伴い、医科歯科統合型の患者安全管理に関する要求は大きく変化しています。口腔医学のピオニアである本学において、その基礎を学び、教育・臨床に貢献していきたいと思っています。

〔略歴〕九州大学歯学部卒。同大学大学院歯学研究科修了。同大学歯学部第1口腔外科助手、ドイツケルン大学病院研修、国立病院九州医療センター歯科口腔外科医長、九州大学病院口腔総合診療科教授、同大学病院副院長を経て平成27年6月1日福岡歯科大学客員教授に就任。歯学博士。

羽生哲也名誉教授、春の叙勲受章

平成27年春の叙勲において、福岡歯科大学名誉教授 羽生哲也先生が、教育研究功勞により「瑞宝小綬章」を受章されました。

羽生先生は、歯科補綴学第1講座(現 有床義歯学分野)教授として、教育・臨床・研究にあたられる一方、情報図書館長、附属病院長を歴任、学校法人福岡学園の理事・評議員も務められ、学園の発展にご尽力いただきました。



山崎純教授、再生医学研究センター長に

福岡歯科大学再生医学研究センター長に、細胞分子生物学講座分子機能制御学分野 山崎純教授が任命されました。

〔略歴〕東京大学薬学部薬学科卒業。同大学院薬学系研究科博士課程修了。同大学薬学部教務職員、同大学院薬学系研究科助手、米国・ネバダ大学医学部リサーチアシスタントプロフェッサーを経て、平成10年、福岡歯科大学歯科薬理学(現 細胞分子生物学)講座に助教として着任。准教授を経て、平成21年7月に細胞分子生物学講座分子機能制御学分野教授に就任。薬学博士。



福岡歯科大学特待生

福岡歯科大学の平成27年度特待生に次の12名が選ばれました。特待生は、平成26年度の学業成績(第1学年は入学時)が特に優秀で、品行方正かつ健康な学生が選ばれ、その年度の授業料の半額が免除されます。

第1学年



安部 珠緒

第2学年



柳田 裕之

第3学年



小林 真希

第4学年



白重 良

第5学年



南館 崇夫

第6学年



新郷 雅史



中上 昌信



岩永 祐輔



伊藤 洋介



田邊 千絵



三原 朋之



安田 梨沙

福岡歯科大学AO入試学術奨励金継続支給者

平成26年度の学業成績が特に優秀で、AO入試学術奨励金(年間120万円)の継続基準を満たしていたため、昨年に引き続き同奨励金が授与されます。

第6学年
後藤 碧



福岡医療短期大学特別奨学生

福岡医療短期大学の平成27年度特別奨学生に次の6名が選ばれました。特別奨学生はその年度の授業料の半額が免除されます。

歯科衛生学科2年次



尾田 真衣香



鳥羽 さつき



末松 千佳



住永 梨乃



中村 くるみ



池島 沙和

歯科衛生学科3年次



筑紫 可奈子



樋口 いづほ

第2学年



江崎 真奈美



福山 絢子



藤原 聖大

第3学年



筑紫 可奈子



樋口 いづほ



筑紫 可奈子



樋口 いづほ

平成27年度福岡歯科大学臨床教授・准教授紹介

●臨床教授

荒川 周幸 あらかわ歯科矯正クリニック・院長
石井 香 いしいかおり小児歯科・院長
上田 秀朗 うえた歯科医院・院長
江崎 和久 睡眠科学研究所江崎歯科内科医院・院長
川崎 俊明 川崎歯科医院・院長
久芳 陽一 くば小児歯科医院・院長
小柳 進祐 小柳歯科医院・院長

下田 恒久 中央歯科・口腔外科クリニック・院長
住吉 周平 スミヨン歯科口腔外科こども歯科・院長
田畑 修 田畑歯科医院・院長
土屋 嘉都彦 土屋デンタルクリニック
中 四良 中歯科医院・院長
中牟田 博敬 熊本大学医学部医学科・臨床教授
中村 芳明 大分県済生会日田病院 歯科口腔外科部長

橋本 敏昭 はしもと小児歯科医院・院長
松永 興昌 松永歯科クリニック審美インプラントセンター・院長
森 智昌 森歯科小児歯科医院・院長
山田 潤一 JR久留米駅前タワー・歯科・院長
米津 康一 嶋田歯科医院・副院長

●臨床准教授

大村 祐進 おおむら歯科医院・院長
大森 桂二 大森歯科医院・院長
榊 恭範 さかきデンタルオフィス・院長
白石 和仁 白石歯科医院・院長
原口 尚大 スターデンタル佐賀・院長
春名 千英子 福岡歯科衛生専門学校・非常勤講師
吉永 修 吉永歯科医院・理事長

※広報誌86号掲載記事についてのお詫び

広報誌86号中6ページに掲載いたしました「福岡歯科大学臨床教授・准教授」に誤りや記載漏れがありました。

関係者各位および読者の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正記事を掲載させていただきます。

激励会
福岡歯科大学・福岡医療短期大学
歯科衛生学科激励会

4月24日、学生食堂において、歯科医師国家試験を受験する口腔歯学部第6学年の激励会が執り行われました。水田理事長による激励の言葉に続いて、石川大学長、中村重雄父兄後援会長、武井俊哉同窓会副会長より応援メッセージを頂きました。また、今春に歯科医師国家試験に合格した先輩2名より、合格に向けて実践的なアドバイスがありました。学生を代表して錦織拓馬さんがお礼の言葉を述べ、6年生は国家試験に向けて決意を新たにしました。

また、6月10日、福岡医療短期大学1階「コミュニティホール」において、歯科衛生士国家試験を受験する歯科衛生学科3年次の激励会が行われました。激励会では水田理事長、栢短大学長による国家試験合格に向けての激励の言葉に対し、住永梨乃さんが代表として挨拶を述べました。



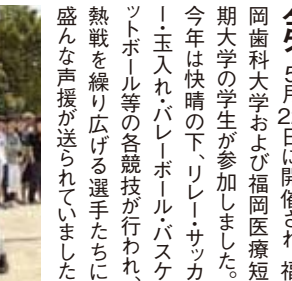
イベント
ここに「コウオーキング&ジヨギング2015」

4月26日、地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会主催の「ここにコウオーキング&ジヨギング2015」が開催されました。当日は、福岡大学陸上競技場において、福岡大学スポーツ科学部田中宏暁教授が体に優しい「スロージョギング」を指導し、参加者約90名は教わった「スロージョギング」を実践しました。また、同時に行われた口臭チェック体験ブースにも多くの方が参加してくださいました。



体育祭
第18回学園体育祭

第18回福岡学園体育祭が、5月22日に開催され、福岡歯科大学および福岡医療短期大学の学生が参加しました。今年も快晴の下、リレー・サッカー・玉入れ・バレーボール・バスケットボール等の各競技が行われ、熱戦を繰り広げる選手たちに盛んな声援が送られていました。



運動会

サンシャインシテイ運動会

6月14日、介護老人保健施設サンシャインシテイ1階「デイケア・リハビリフロア」にて第13回運動会が開催されました。この運動会は入所者の日頃のリハビリの成果を活かし、競技を通じて入所者とその家族、職員が共に楽しく汗を流し交流を深めること、また、施設での看護・介護について理解を深めて頂くことを目的として毎年行っています。

今年は障害物競走や綱引き、玉入れなどの競技が行われ、楽しいひと時を過ごしました。



決意式

福岡医療短期大学 保健福祉学科 実習決意式

6月25日、福岡医療短期大学3階305講義室において、初めての学外実習を行う保健福祉学科1年次の実習決意式が行われました。水田理事長、栢短大学長、1年次代表の岩隈弘晃さんが学外実習に対する誓いの言葉を述べ、最後に2年次代表の井上宏一さんが後輩へエールを送りました。



公開講座

平成27年度 福岡歯科大学公開講座

7月7日、福岡歯科大学本館9階講堂において、福岡歯科大学公開講座「夏からはじめよう！花粉症対策とスキンケア」が開催され、99名の方にご参加いただきました。講座では、総合医学講座耳鼻咽喉科学分野 山野貴史准教授より花粉症の治療法について解説され、スギ花粉症の舌下免疫療法などが紹介されました。また、口腔顔面美容医療センター・形成外科 萩家康弘准教授より、医療の一分野として注目されている老化現象の防止（アンチエイジング）に役立つ情報を中心に講演が行われました。

講演後には質疑応答の時間が設けられ、参加者は講師の回答に耳を傾けていました。



第15回 福岡医療短期大学 公開講座

「認知症」を考える パートII …地域で支える認知症ケア…
日時 平成27年10月4日(日) 13:00~16:30
場所 福岡医療短期大学 307教室 定員 120名 定員になり次第締め切らせていただきます。

PartI: 教育講演 **PartII: シンポジウム**
お口で脳トレ…お口の健康は認知症を予防する…
地域で連携を考える「認知症ケア」
講師: 吉野賢一先生 (九州歯科大学口腔保健学科口腔保健管理学講座 准教授)

●参加申込期間: 平成27年8月1日(土)~9月19日(土)
●申込方法: Faxでお申し込みください。
申込および 福岡医療短期大学 公開講座委員会
問合せ先 TEL: 092-801-0923(内線151) Fax: 092-801-4473

受講料 無料

第11回 健康まるごと福岡学園

日時 10月24日(土)・25日(日) 場所 福岡歯科大学
福岡学園では、医療・保健・介護のみではなく、より広い分野での地域に貢献するため、「健康まるごと福岡学園」を開催します。

イベント
●田の歯科祭 ●からだの科学展 ●講演会 ●医科ミニ講座
●歯科無料相談 ●介護無料相談、介護施設見学 ●短大企画

福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話: 092-801-0411(内線508) FAX: 092-801-3678
E-mail: kikaku@college.fdcnet.ac.jp

ご案内 平成27年度父兄後援会支部懇談会開催日程

平成27年度の父兄後援会支部懇談会が下記日程のとおり開催されます。各支部の総会のほか、大学からの近況報告や父兄との個別面談、意見交換などが行われます。是非ご参加ください。詳細については各支部へお問い合わせください。

実施日	開催支部	会場名
8月1日(土)	福岡県中央	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	近畿	大阪ガーデンパレス(大阪市)
8月2日(日)	大分県	レンブラントホテル大分(大分市)
	広島県・山陰・岡山県	リーガロイヤルホテル広島(広島市)
8月8日(土)	福岡市	福岡ガーデンパレス(福岡市)
8月9日(日)	福岡県南部	ハynesホテル久留米(久留米市)
	北九州	リーガロイヤルホテル小倉(北九州市)
	宮崎県	宮崎観光ホテル(宮崎市)
鹿児島県	鹿児島東急REIホテル(鹿児島市)	
8月15日(土)	沖縄県	リーガロイヤルグラン沖縄(那覇市)
8月16日(日)	福岡県東部	のがみプレジデントホテル(飯塚市)
8月22日(土)	佐賀県	マリトピア(佐賀市)
	熊本県	ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ(熊本市)
8月23日(日)	四国	松山全日空ホテル(松山市)
	長崎県	ホテルニュー長崎(長崎市)
	山口県	山口グランドホテル(山口市)
	中部・東海・関東・東日本	東海東京証券ミッドランド・プレミアサロン(名古屋)

福岡歯科大学同窓会第28回学術講演会・第32回臨床セミナー報告

学術常務理事 葛西 秀夫 (6期生)

平 素より福岡歯科大学同窓会活動にご協力ご理解を賜り誠に有難うございます。

昨年度の学術講演会は、平成27年2月11日、福岡県歯科医師会館大ホールにて「天然歯保存の可能性を探る」エントの立場からベリオの立場から」をメインテーマに開催いたしました。今回の講演会では日常臨床における天然歯の保存の可能性と限界にこだわり、福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野 阿南壽教授が体調不良のため代理で、元福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野講師 鬼塚得也先生に「エンドペリオ治療の発展と痛みの制御 検査・診断の重要性について」と題しての講演を、そして北九州市にて開業された福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野臨床准教授 白石和仁先生に「そこまでやるか?」Perioはしつこさが命!」、大阪市で開業された大阪歯科大学歯学部臨床准教授の福西一浩先生に「歯の保

存か、抜歯をしてインプラントか?」と題して、それぞれの立場からご講演を頂きました。2月の極寒にもかかわらず、器材展示業者を合わせ150名の方がご参加下さり、質疑応答も定刻を過ぎても行われ、盛会に終わり大変有意義な講演会でした。

そして3月8日、福岡歯科大学口腔医療センターの研修室にて、臨床セミナー「オフィスホワイトニングから広がる審美歯科治療」を、福岡歯科大学校舎修復学講座冠橋義歯学分野臨床教授の松永興昌先生に開催して頂きました。ホワイトニングは、患者のQOL向上に効果的な治療法と再認識させられました。

今後も学術委員会活動を通じて時代の変遷に適切に進化をしながら、母校と共に同窓会も成熟してゆきます。皆様にとつてさらに魅力のある充実した同窓会づくりに小生も貢献出来たら幸いです。今後とも同窓各位のご協力を宜しくお願い致します。



卒業生 NOW

「きらめきプロジェクト」と私

今村 貴子 (23期生)

こんにちは。私は大学を卒業後、九州歯科大学附属病院特殊歯科総合治療部(現 全身管理歯科)に入局し、有病者、高齢者の歯科治療に従事してまいりました。卒業15年となり、3人の子供の出産、育児、大学院での学位取得と様々なライフイベントを経験し、育児と仕事や研究との両立に悩みながらも、幸いなことに歯科医師としてのキャリアを継続しています。これには、九州歯科大学の女性歯科医師の復職支援制度である「きらめきプロジェクト」が、大きな原動力となりました。

この「きらめきプロジェクト」は、福岡学園理事長であられる水田祥代先生が、九州歯科大学院長在職時に、文部科学省補助金を受け平成19年に始動されました。現在は九州歯科大学の独自プロジェクトとして継続されています。その活動の中で、私が最も有り難いと感じているのは、非常勤歯科医師勤務のサポートです。女性は出産や育児、介護、自身の病気などで、離職してしまいがちです。「きらめきプロジェクト」では、それぞれのライフスタイルに合わせて時間をパートタイム採用して頂き、最新の臨床に触れ、診療や研究に従事し、専門医や認定医の取得、学会や論文の発表、学位の取得などのキャリアアップを目指すことができます。

現在私は、「きらめきプロジェクト」の非常勤歯科医師として学位論文のテーマでもあった造血幹細胞移植患者の口腔ケアと周術期口腔ケアセンターでの診療をしています。こうして、家庭での役割を果たしながら社会の中で歯科医師として活躍できることは大きな喜びです。

これまでに多くの方々のお世話になりましたが、特に、九州歯科大学全身管理歯科講師の二木寿子先生(3期)、現福岡歯科大学総合歯科学講座の森田浩光准教授にご指導いただきました。福岡歯科大学に繋がる貴重なご縁を大切に、いつか、母校にご恩をお返しできるよう頑張ります。



同窓生からの

手紙

水田祥代先生

福岡学園理事長就任祝賀会

福岡歯科大学同窓会副会長 馬場 篤子 (12期生)

平成27年4月19日、福岡市内の西鉄グランドホテルに於いて福岡歯科大学同窓会主催、水田祥代先生福岡学園理事長就任祝賀会を執り行いました。祝賀会には本部署員をはじめ各府県同窓会会長が多数駆けつけてくださいました。

祝辞は、寺尾隆治(佐賀県歯科医師会会長(1期)、比嘉なつみ(衆議院議員(8期)、高橋裕(咬合修復学講座有床義歯学分野教授(3期))の3氏にいただきました。

また、石田哲也(大阪府同窓会会長(9期))から、理事長のラッキーカーの赤い胡蝶蘭(実はピンクでした)の贈呈も行われました。水田理事長の挨拶では、先生が小児外科医を目指した経緯を話していただき、参加者一同先生のお人柄に触れることができました。「人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、もう一つは「まさかの坂」。理事長はその「まさかの坂」真っ只中。新理事長として田中前理事長が提唱されていた「口腔医学」の学問体系の確立を目指すこと、また看護大学の設立をはじめ本学園の発展のために行うべき今後の抱負を力強く述べられました。

我々同窓会は、母校発展のため、水田理事長を全力で応援すると固く結束し、盛會裡に祝賀会は終了しました。



同窓生の子弟に対するオープンキャンパスを開催

5月31日、福岡歯科大学の同窓生の子弟を対象としたオープンキャンパスを開催しました。受験生をはじめ、歯学に興味を持つ受験生や高校1、2年生、中学生も多数参加し、盛況のうちに終了しました。参加者からは、在校生との対話や実習を通じて授業の雰囲気や体験することで、福岡歯科大学がより身近なものに感じられたと喜びの声をいただきました。



実習体験の様子



進学相談の様子

一 育児との両立を目指して

吉岡 華子 (26期生 / よしおか歯科子ども歯科(福岡市中央区))

こんにちは。26期卒の吉岡華子です。卒業後、前原にある「いいいかり小児歯科」で9年間お世話になりました。その後3人目の出産の期に石井香先生の元を退職し、平尾で「よしおか歯科」として開業して

いた主人の所に勤務する事になりました。現在は名称を「よしおか歯科子ども歯科」に変更し、副院長として勤務しております。仕事では、北園矯正コース、長崎バイオブロックセミナー、そして今年からは、福岡歯科大学の成長発達歯学講座成育小児歯科学分野で行われている朝のカンファレンスに出席し勉強させて頂いております。開業当時は、ユニット3台、スタッフ2名でしたが、今ではユニット4台、スタッフ4名に、さらに今年



年は診療室を拡大して、ユニット5台になる予定です。プライベートでは、今年で長女が保育園を卒園し、小学校に入学する事になりました。月日が経つのが本当に早いと感じている毎日です。また、異業種の方とお会いする機会が増え、その中でも、お子さんをお持ちでバリバリ働いている女

性の方をみると、こちらもがんばろうと奮起させられます。今後も子育てと診療との両立が続きますが、諸先輩方を見習い、がんばっていききたいなと思っております。



一 人生の表舞台に

金田 由美 (24期生 / まりん歯科クリニック(宮崎県宮崎市))

こんにちは。24期卒業の金田由美です。今年の4月1日に宮崎でまりん歯科クリニックを開業しました。2年前に開業を考え始めましたが、気持ちの浮き沈みも多くありました。責任を持って患者さんに十分な治療を提供出来るのか、スタッフの生活を守っていきけるのか、不安を抱きながらオープンになりましたが、周りの方々に支えられて2ヶ月経ちました。

昔から自分自身が歯科ぎらいだったので、痛くない、怖くない歯医者さんを作っていきたいという思いで病院を作りました。設計の途中でふと「ドッグランを作ってみたらどうだろう」と思い、駐車場設置予定の場所をドッグランにしてみました。わんちゃん



歯医者さんというイメージがついてくれているかは分かりませんが、学校帰りの子どもたちが遊びに来てくれたり、飼い犬を連れて治療に来て下さる患者さんもいます。また、「子どもが歯医者さんに行きたいって言うんです」と、あるお母様から最高のお褒めの言葉をいただきました。

そんなこんなで少しずつではありますが患者さんも増えてきて、スタッフの皆さんも徐々に仕事に慣れて来ました。自分が不安だと言っている場合ではなく、まりん歯科クリニックに関わる全ての人に責任を持って接していかなければいけないという強い思いを日々感じています。地域社会にしっかりと貢献でき、なくてはならない施設になれるよう努力していこうと思います。

FRONT STUDENTS 学生からのメッセージ

おはなし隊



「一緒に絵本の読み聞かせをやらなさい。」という友人から誘われ、昨年の学園祭で自分はおはなし隊の一員として読み聞かせ企画に参加しました。本学の学園祭に遊びにきてくれた小学生や幼稚園児たちが楽しみながら話を聞いてくれていることがとても嬉しく、やってよかったと達成感で満たされました。

自分は学校生活において、留年という形で両親や期待してくれていた周りの方々に迷惑や心配をかけてしまいました、そして何より自分が自信を無くしてしまいました。昨年の学園祭前にこの誘いを受けたとき、「どうせ二度も同じ学年をやるんだっただら新しいことを始めてみよう」とくらいに思っただけで加勢することになりましたが、この読み聞かせ企画を通して自分は様々なことを学ぶことになったのです。人に何かを伝えるために工夫して表現することの難しさや、使用する絵本一つ一つに著作権がある

松浦 京之介 (福岡歯科大学 3年)

ことなどを学び、それらについて深く考えたりもしました。実際に読み聞かせをする時間は1回で20分程度と短いのですが、これを準備するために多くのことを考え、メンバーで会議し、時には勉強をし、学祭の直前にはリハーサルをしたりして、たくさんの時間をかけてやっと読み聞かせができるのです。自分はこの経験で何か一つのことを本気で取り組むこと、みんなで一つのことを成し遂げることの大切さを学び、それを達成したことで失っていた自信を取り戻すことができました。

そして今年もこの読み聞かせ会の学園祭で二日間やらせていただきます。興味ある方はぜひいらしてください。



BACK PARENTS 保護者様からのメッセージ

卒業後、どんな歯科医師を目指しますか？

始めに、先日逝去されました田中前理事長のご冥福を心よりお祈りいたしますと共に、水田新理事長のますますのご繁栄を祈念いたします。

さて、福岡歯科大学の在校生の皆さん、卒業してからどんなタイプの歯科医師になろうと思えますか？ある人は、大学に残り研究に励み、教授から学長、ついには理事長まで上り詰める学者タイプ、またある人は地域歯科医療向上を願い、地域と連携し、開業歯科医になる開業タイプ、その他「人生いろいろ」だと思えます。福岡歯科大学の卒業生の80パーセントが開業歯科医を目指す聞いています。皆さんはもちろん、自分や家族の為にだけに仕事をするだけではなく、同業者や後輩、地域住民の為に、各都市区や県歯科医師会、日本歯科医師会に進

同窓生として思うこと

挨拶の「挨拶」は「心を開く」、「挨拶」は「心に近づく」という意味があり、自分の心の窓を開けば相手の心に近づくという意味合いを持つ挨拶は、「コミュニケーション」の出発点であり、礎と言えます。私達は、毎日数多くの人達と接し、自ら進んで相手に挨拶と声かけをします。それは、大切な人達への「私はあなたを知りたい、共に歩みたい」という切なる思いであり、熱いメッセージであると思います。便利なツールが普及し機器を通じたバーチャルな人間関係が氾濫する現代社会において、リアルな人間関係は薄れてきている様な気がします。我が職場においても、毎日繰り広げられるのは、バーチャルな人間関係ではなく、自身のリアルな人間同士のやり取りに他ならないのです。

パソコンやスマホなどによるバーチャル

んで参画し、協調していくという道も頭に置いておいてください。歯科医師という仕事は、「自分の努力だけで、望みが叶う」と肝に銘じながら、各人の将来を楽しんでください。また在学中は、学生の本分とは何かを常に頭に置き、我武者羅に勉学に励み、各学年に訪れるであろう壁(各試験)を軽々とクリアし、自分が目指す立派な歯科医師に一日も早くなつてほしい。

追伸 6年生のK君へ。何をやるにも体が資本だと思えます。くれぐれも体調管理には気を付けて、長いよう短い6年間の学生生活を楽しんでください。



古賀 寛一 様 (父兄後援会理事)

な世界と現実のリアルな世界での人間関係のバランスが難しく、若者たちが現実社会で心の足場を築き難くなっている今、私達は保護者として何を伝えたいのでしょうか。迷い悩みながら自分が見つけた答えが「挨拶」でした。挨拶こそが自分を尊重し、相手を尊重する現代社会での原点であり、リアルな世界でのミラクルであり、若者達の自立の最高の魔法だと思っております。


先ず、相手より先に、相手より大きな声で挨拶することを心がけてみませんか。学生の皆さんの福岡大での学びが、いつまでも心の光となるよう願ってやみません。



時枝 雅之 様 (父兄後援会理事)

平成28年度 入学試験日程

福岡歯科大学

口腔歯学部							
区分	AO入試Ⅰ期	推薦・指定校推薦入試	一般入試A日程	センター試験利用入試Ⅰ期	一般入試B日程	センター試験利用入試Ⅱ期	AO入試Ⅱ期
募集人員	約13名	約15名	約47名	約5名	約12名	約2名	約2名
願書受付期間	H27.8.3(月)～9.3(木)	H27.11.2(月)～11.12(木)	H28.1.4(月)～1.28(木)		H28.2.1(月)～3.2(水)		H28.3.7(月)～3.17(木)
試験日	H27.9.6(日)	H27.11.14(土)	H28.2.2(火)		H28.3.4(金)		H28.3.22(火)
合格発表日	1次 H27.9.8(火) 2次 H27.10.6(火)	H27.11.16(月)	H28.2.4(木)午後5時		H28.3.8(火)午後5時		H28.3.23(水)
試験会場	福岡歯科大学試験場		福岡歯科大学試験場及び東京試験場		福岡歯科大学試験場		
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話及びスマートフォン用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col/deviceselect.html						 ◀携帯電話からのアクセスはこちらから!

福岡医療短期大学

歯科衛生学科区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	専攻科・口腔保健衛生学専攻		
								一次募集	二次募集	三次募集
歯科衛生学科募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約15名	約5名	若干名
保健福祉学科区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)自己推薦入試(I)	公募推薦入試(II)自己推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	約15名	約5名	若干名
保健福祉学科募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名	約5名	若干名
願書受付期間	H27.10.1(木)～15(木)	H27.11.6(金)～19(木)	H27.12.1(火)～10(木)	H28.1.4(月)～28(木)	H28.1.29(金)～2.17(水)	H28.2.18(木)～3.2(水)	H28.3.7(月)～22(火)	H27.12.1(火)～10(木)	H28.1.4(月)～28(木)	H28.3.7(月)～22(火)
試験日	H27.10.17(土)	H27.11.21(土)	H27.12.12(土)	H28.2.1(月)	H28.2.19(金)	H28.3.4(金)	H28.3.23(水)	H27.12.12(土)	H28.2.1(月)	H28.3.23(水)
合格発表日	H27.10.22(木)	H27.11.26(木)	H27.12.17(木)	H28.2.4(木)	H28.2.25(木)	H28.3.10(木)	H28.3.24(木)	H27.12.17(土)	H28.2.4(木)	H28.3.24(木)
試験会場	福岡医療短期大学						福岡医療短期大学			

AO入試(社会人含む) 歯科衛生学科(約35名) / 保健福祉学科(約15名)											
願書受付期間	H27.8.3(月)～5(水)	H27.8.10(月)～19(水)	H27.9.2(水)～10(木)	H27.9.14(月)～24(木)	H27.10.1(木)～15(木)	H27.11.6(金)～19(木)	H27.12.1(火)～10(木)	H27.12.17(木)～H28.1.14(木)	H28.1.29(金)～2.17(水)	H28.2.18(木)～3.2(水)	H28.3.7(月)～22(火)
試験日	H27.8.7(金)	H27.8.21(金)	H27.9.12(土)	H27.9.26(土)	H27.10.17(土)	H27.11.21(土)	H27.12.12(土)	H28.1.16(土)	H28.2.19(金)	H28.3.4(金)	H28.3.23(水)
合格発表日	H27.10.1(木)	H27.10.1(木)	H27.10.1(木)	H27.10.1(木)	H27.10.22(木)	H27.11.26(木)	H27.12.17(木)	H28.1.21(木)	H28.2.25(木)	H28.3.10(木)	H28.3.24(木)
試験会場	福岡医療短期大学										
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp										

*社会人AO入学試験は、上記日程で行います。(注)オープンキャンパス・AO入学試験については、希望により随時開催することがあります。

キャンパス歳時記

ガーデン研修会

5月26日に開催された評議員会、理事会終了後、学園理事、監事、評議員との親睦を図る「ガーデン研修会」が開催されました。本館南側庭園で開催された研修会には多くの教職員が参加し、ベコンや焼きそば、豚汁などに舌鼓をうちながら、学園役員等との懇親を深めました。



編集後記

数年ぶりに広報誌編集部が改編されました。次号より新編集部によりお送りすることになります。新コーナーの新設もあるかもしれません。先号までのコラム「水の如し」は池邊哲郎先生に執筆いただきました。本学切っ手の読書家、流れるような文章を皆さまにはお楽しみいただけたのではないのでしょうか。今号はコラムはお休みで、来号からまた新しい連載が始まる予定です。(NT)

オープンキャンパス開催のお知らせ

福岡歯科大学・福岡医療短期大学
オープンキャンパス情報

本学の入学希望者をはじめ、そのご家族を対象としたオープンキャンパスを下記の日程で開催いたします。各大学の入試係までお問い合わせの上、お気軽にご参加ください。

詳しくは
ホームページで
公開中!

福岡歯科大学

第1回 7月26日(日) 10:00～15:00

〈内容〉模擬講義、模擬実習、施設見学、在学生との座談会など
歯学教育に興味のある小中学生から保護者まで、幅広く皆様のご参加をお待ちしております。

第2回 8月1日(土) 11:00～15:00

〈内容〉模擬実習、小論文・面接対策、平成28年度入試説明、施設見学、在学生との座談会など
本学の受験を考られている方は必見です。



メールでのお申込みはこちら



模擬実習



施設見学

福岡医療短期大学

実施日 開催時間/13:30～16:00

7月24日(金)
8月1日(土)・7日(金)・21日(金)
9月12日(土)・26日(土)
10月17日(土)/11月21日(土)
12月12日(土) / 1月16日(土)
2月19日(金) / 3月17日(木)

内容

- ◎施設見学
- ◎カリキュラム説明
- ◎在学生の声紹介
- ◎入学試験説明



メールでのお申込みはこちら



歯科衛生学科体験



保健福祉学科体験